

発行所  
カトリック福江教会  
広報委員会  
五島市末広町3-6  
☎ 0959(72)3957  
●ホームページ●  
<http://fukuechurch.jimdo.com>

## 復活祭を前に

主任司祭 中村

満

ルカ福音史家は、その福音書の24章で復活とは何かをテーマに、その本質と意義を説いている。24章は、復活の朝の出来事から書き始め、二人の弟子のエマオへの旅とイエス様の弟子たちへの出現を記し、弟子たちへの最後のことばを紹介し、聖霊を遣わすことを約束され、その後、昇天したことを記して章を終えている。四旬節の間に24章を詳しく読み、黙想し、味わいたい。中でも、その前半部分を。

復活の朝、即ち、日曜日の朝、婦人たちが香料を持って墓に行くが、墓にはイエス様の体はない。二人の神の使いが現れ、「なぜ、あなたがたは、生きている方を死人の中に捜すのですか。その方はここにはおられません。復活なされたのです」と

告げます。墓から帰った婦人たちは、使徒たちに墓での出来事を伝えませんが、彼らはその報告を信用しません。その後、ルカは、同じ日の出来事としてエマオへの旅の話載せています。旅人二人が朝の出来事を話し合ったり、論じ合ったりしている。とイエス様自身が近づいて来て、一緒に歩き始められます。二人はイエス様だと気が付きませんが、イエス様の最後について語り、そして、使いが婦人たちに現れ「イエスは生きておられる」と告げたとあります。そこで、イエス様は、モーセから始めて、すべての預言者が、ご自分について聖書全体にわたって書いている事を二人に説明されました。二人は、夕刻になったので、一緒にお泊り下さいと願います。そして、一緒に食卓につかれたとき、イエス様はパンを取り、賛美をささげて、手で分け、二人に渡します。すると、二人の目は開かれ、イエス様だと気が



きますが、そのとき、その姿は見えなくなりません。その後、すぐにエルサレムに引き返しますが、使徒たちと仲間が集まっていて「主は本当に復活して、シモンにお現われになった」と話していました。二人も旅の途中で起こった事や、パンを手で分けたとき、イエス様だと気付いた次第を語ります。エマオへの旅の件は、日曜日ごとに教会に集い、感謝の祭儀を捧げている初代教会の姿を映し出していると言われます。聖書を朗読し、聖体祭儀を行い、御父への感謝を捧げていた人々の信仰生活を背景にまとめ、それぞれの時代に生きる信仰者への福音としたと言えます。復活され生きておられるイエス様を見たことのない人々、私たちに向けて、その姿は見えなくても良いでしょうと諭しています。なぜなら、二人の弟子のように、「みことば」を聴くとき、「パン」を手にするとき、イエス様だと気付くことができるからです。イエス様は、「みことば」と「パン」を通して私たちの下に来て、支え、励まし、共に歩んでくださるのです。

## 四旬節を過ぎず

助任司祭 稲田祐馬

四旬節について、第二バチカン公会議の『典礼憲章』ではこのように言われています。

109 四旬節の二重の性格が、典礼においても典礼に関する信仰教育においても、いっそう明らかにされなければならぬ。すなわち、とくに洗礼の記念または準備を通して、そして悔い改めを通して、信者は神のこゝばをいっそう熱心に聞き、祈りに励んで、過越の神秘を祝うために備えるのである。したがって、

a 四旬節の典礼に固有の洗礼の要素をいっそう豊かに用いなければならない。適当であれば、かつての伝統の中から、あるものを復興しなければならない。

b 悔い改めの要素についても、同様のことをいわなければならない。信仰教育については、罪の社会的影響とともに、神に背くこととして罪を忌み嫌うという悔い改めに固有の性格を信者の心に教え込まなければならない。また、悔い改めの行為における教会の役割をおろそかにせず、罪人のための祈りを熱心に勧めなければならない。

で社会的なものでなければならぬ。悔い改めの実践は、現代とそれぞれの地域の可能性、そして信者の状況に応じて促進され、第二三条にある権威者によつて奨励されなければならない。」

というわけで、四旬節に二つの性格を見ることが出来ます。それは、一つは洗礼志願者にとつては洗礼を受ける準備の期間であること、もう一つはすでに信者である人にとつては、ごミサの中で行われる洗礼志願者のための典礼に共にあずかりながら、自らの洗礼の恵みを思い起こし悔い改め、信仰の核心である、受難・死・復活という過ぎ越しの神秘をよりふさわしく祝うための準備だと言えるでしょう。

四旬節を迎えるたびに教皇様は四旬節メッセージを出しておられますが、今回は「主の変容」の出来事を取り上げ、タボル山に登られたイエス様と弟子たちの歩みと、四旬節の歩みを照らしてお話になられていました。「主の変容」の出来事の前には、「サタン、引き下がれ」、「神のことを思わず人間のことを思っている」とイエス様がペトロを戒める場面があります。わたしたちも日ごろの暮らしの中で、つい神さまのことを忘れ、神さまから与えられた十字架をはねのけ、自分中心の生活になってしまうことも度々ではないでしょうか。四旬節という山、黙想会とい

う山に登り、神さまの輝かしい姿を仰ぎ見ることがわたしたちに必要です。悔い改めるといふと自らの生活の振り返りに終始してしまいそうですが、気を付けたいたいのには、「罪」も啓示の対象であるということ。神さまという道から外れた状態が罪の状態なので、神さまを見つめようとしなると、自らの罪も浮かび上がってきます。四旬節の期間の長さはイエス様が荒野で受けられた四十日間の誘惑が起源になっています。悪霊の誘惑をみことばによつて退けられたイエス様に心を合わせ、みことばを武器に歩んでいきたいものです。

## ワールド・ユース・デー WYD2023・ リスボン大会のお知らせ

助任司祭 西田祐尚

四旬節をお過ごしの皆様、如何お過ごしでしょうか。本来なら、この小教区報は、福江小教区のすべての信徒の皆様に向けて、何か良い糧となることを書かなければなりません。が、今回は、青年たち、また、未来の青年たち（小中高生たち）に向けての内容を認めさせて頂きますことを、お許しください。

今年の八月一日(火)〜八月六日(日)にかけて、ポルトガルのリスボンとい

う都市で、『WYD（ワールド・ユース・デー）リスボン大会二〇二三』という大会が開催されます。このWYD（ワールド・ユース・デー…以下、WYD）とは、世界各地のカトリックの若者たちが、開催都市に集い、一週間ほど、共に祈り、交流し、同じ信仰を分かち合う大会です。この大会には、毎回、教皇様もバチカンから来られ、若者たちと共にごミサや晩の祈りなどを捧げてくださいます。とある大会の参加者の記事では、参加者が二〇〇万人ほどであったとも書かれています。それだけ、多くの全世界の若者たちが、参加する集いだということです。

この大会の歴史は古く、カトリック中央協議会のホームページにより、国連が一九八五年を「国際青年年」と定めたことを受け、前年の一九八四年「あがないの特別聖年」の閉会ミサにて、教皇ヨハネ・パウロ二世が、青年たちにローマに集うように呼びかけたことが始まりでした。その後、毎年「枝（受難）の主日」が「世界青年の日」と定められ、二、三年ごとに世界各地でWYDの世界大会が開催されるようになりました。その後、二〇二〇年十一月二二日（日）「王であるキリストの祭日」のミサの終わりにて、教皇フランシスコは二〇二二年より、「世界青年の日」を「王であるキリス

トの祭日」に変更するとなりました。

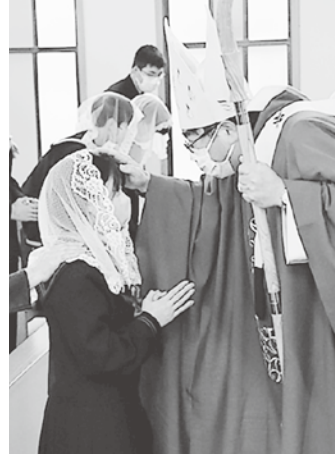
開催都市は一九八五年の最初のローマ大会から、現在に至るまで、非常に様々です。いくつか代表例を挙げますと一九八九年サンチャゴ・デ・コンポステラ（スペイン）、一九九七年パリ、二〇一一年マドリッド（スペイン）、二〇一三年リオデジャネイロ、二〇一六年クラクフ（ポーランド）、二〇一九年パナマ（パナマ共和国）、そして今回がリスボン（ポルトガル）です。他にも、世界中の様々な都市で開催されています。ちなみに私も神学生時代、二〇一六年のクラクフ大会に参加しました。

今回の大会については、教会掲示板等に案内を近日中に張り出します。また、未来の青年の皆さん、いつか皆さんが青年（一八歳以上、高校卒業）になったとき、この大会にぜひ参加してみてください。同じ信仰を持つ、全世界の人々と出会えますよ!!

尚、WYDに関する情報は、カトリック中央協議会のホームページでご覧になれます。また、WYDに関して、気になることがあれば、いつでも気軽に私にお聞きください。



# 下五島地区 合同堅信式 2023



一月十五日(日)十一時より福江教会にて下五島地区合同堅信式が行われた。中村倫明大司教様の着座後初めての下五島地区堅信式は、コロナ禍の影響もあり関係者に限定した参列者のもと行われた。受堅者は全体で十四名で、福江教会からは九名であった。

## 【福江教会受堅者】

- パウロ 堂崎 翔太
- ルカ 中尾 露唯
- ガブリエル 中田 秀人
- レオ 山口 遥飛
- テクラ 小出 琉華
- 幼きイエズスのテレジア 西津 奈那
- マリア 森 愛暖
- アグネス 木戸 めぐり
- アシジのフランシスコ 田中 隆

中村大司教様は説教の中で、阪神淡路大震災で母を亡くし祖父母の住む福江に移り住んだ青年が、初めは現実を受け入れられず反発していたが、様々な困難と葛藤を乗り越えて、五島高校を卒業するまでの様子を紹介しながらこのように述べられた。

「本日、堅信を受ける皆さんはどうして洗礼を受けないといけないのか、どうしてミサに行かないといけないのかと思います。でも、今日は信者で良かったと思える日です。お父さんお母さんありがとうと言える日です。周りから言われてではなく、自

分から堅信を受ける。学んできた事、神様の子供であること、ものすごく愛されている事、なにより小さい頃からミサで味わったはずの癒しを知っているはずです。癒され続けてきたはずです。その癒しを知っているものとして次の歩みに繋げていく。これからは本当の信仰で、人々を癒していく、改めて確認していく。」

「周りの人々のために自分を捧げるのは神様の生き方です。神様は人々のためだけではなく、罪人のためにご自分の命を差し出してくださいました。神様はいつも共にいてくださる。精霊を注がれて共にいてく

## 中村大司教様 公式訪問

一月十五日(日)中村倫明大司教様の福江教会公式訪問として会合が行われた。

今回の福江教会訪問は、中村大司教様着任後初の下五島の教区訪問となった。コロナ禍の影響で短時間であったが、評議会役員、評議員が集まって各々自己紹介を行った。

大司教様より日頃の評議会活動に対する労いの言葉を頂き、皆緊張と喜びの混じった表情を見せていた。

ださる。神様のように幸せを分け与えながら、大人の信者になっていく事を願っていききたい。真の生き方、命さえ与えてくださる神様になり、人々のために生きていく。みんなにもありがとうを言える。神様と共に歩んでいきましょう。」

説教の後、受堅者は洗礼の約束の更新と信仰宣言を行い、大司教様より按手と聖香油の塗布を受けた。



# 墓地の管理について

福江小教区の墓地（医王慈墓地・桐ヶ丘墓地）について、相談事や困っていることはありませんか？ 教会では墓地管理規則が定められており、墓地管理に関する様々な事柄について対応しています。今回は、墓地管理規則の内容を抜粋してご紹介致します。

- ①お墓を建てる場合…（第五条）墓地使用権者（墓地の使用権を有する者）は墓地工事施行承認申請書を教会に提出し、主任司祭の承認を受けなければならない。
- ②墓地の売買について…（第六条）墓地の売買の契約を行うおととする者は、墓地売買契約承認申請書を教会に提出し、主任司祭の承認を受けること。また、自己の墓地の売買が終わった者は、墓地売渡証を主任司祭に届け出なければならない。
- ③墓地の譲与、相続について…（第七条）墓地の一部又は全部を譲与する者は、墓地使用権譲与届書を教会に提出しなければならない。また、墓地使用権者が死亡し、その使用権を相続する者は、墓地使用権相続届書を教会に提出しなければならない。

④小教区外へ転出する場合…（第八条）墓地使用権者で福江小教区外へ転出する者は、墓地の管理代理責任者を指定し、墓地管理代理責任者申請書を教会に提出して主任司祭の承認を受けなければならない。

⑤墓地使用権の寄贈…（第九条）墓地使用権者が、その使用権を教会に返還したい場合は、墓地使用権寄贈申出書により主任司祭に届け出るものとする。

⑥墓地の改葬…（第十条）墓地の改葬（埋蔵、収蔵した焼骨を他の墳墓や納骨堂に移すこと）をしようとするときは、墓地改葬届を主任司祭に提出し、教会の墓地管理担当者の指示を受けなければならない。また、遺骨を他の小教区に移す場合には、墓地改葬による異動届により主任司祭に届けなければならない。

⑦墓地の管理委託…（第十一条）やむを得ない事由により自己の墓地の管理ができない場合には、墓地管理委託申出書により、教会に管理の委託を申し出ることができ

このように墓地に関する様々な規則が定められています。それぞれの届け出書や申請書類は、その様式が教会に用意してありますので、司祭

# 青年会ミニバザー

十二月十一日（日）二番ミサ後に青年会のミニバザーが信徒会館一階で行われた。クリスマスカードや祈禱書のカバーとコースター、手作り造花の花束など品揃えも豊富で、会場には多くの方が訪れ思い思いに品物を選んでいった。今回のバザーの収益金は、カリタスジャパンへの寄付と青年会の活動に役立たれるとのこと。

コロナ禍で信徒同志の関わりがしづらい中で、交流の一環としての思いもあって行われた今回のミニバザー。ご購入頂いた皆さん、ご協力ありがとうございました。今後とも



館においていただくか、直接神父様にお尋ね下さい。

なお、十一条の墓地管理委託については、管理委託費が必要となります。管理内容や委託費用については神父様にご相談下さい。

青年会の活動への後押しを皆でやっていきましょう！



青年会の皆さん。お世話している浜辺シスターと。

# 編集後記

広報誌「こころ」第二三六号を発行しました。皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍も丸三年を過ぎ、一月の「第八波」では福江でも多くの感染者が確認されました。まだまだ不安な気持ちの方も多いかもしれませんが。

世界ではトルコ、シリアの大地震や、長期化するウクライナ侵攻により、多くの命が犠牲となっています。四旬節を過ごしなが、普段のお祈りに加えて悲しんでいる、苦しんでいる方々に心を寄せてみてはと思います。

(N・H)